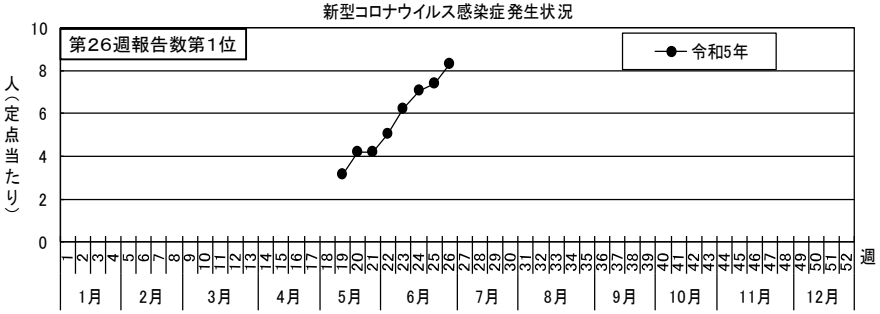
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

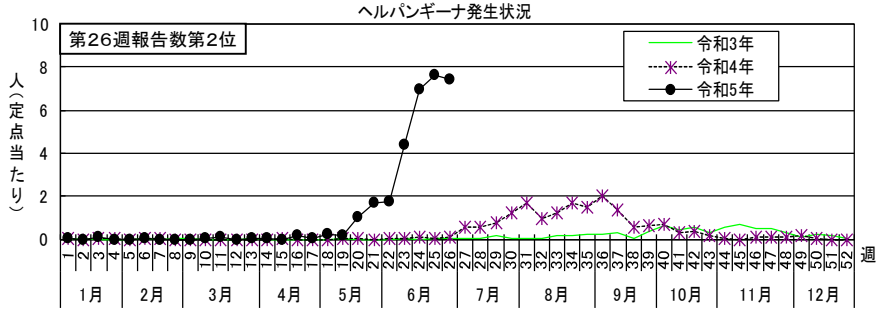
令和５年６月２６日（月）～令和５年７月２日（日）〔令和５年第２６週〕の感染症発生状況

第２６週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、１）**新型コロナウイルス感染症**　２）**ヘルパンギーナ**　３）**感染性胃腸炎**でした。
新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は８．３３人と前週（７．４３人）から増加しました。
ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は７．４６人と前週（７．６５人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は４．９７人と前週（４．４９人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

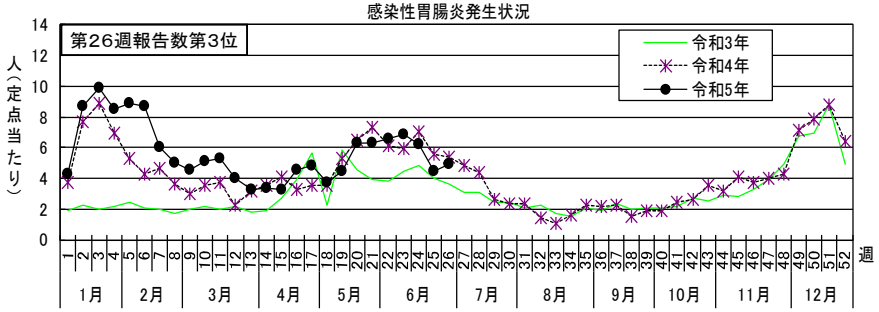
新型コロナウイルス感染症発生状況



ヘルパンギーナ発生状況



感染性胃腸炎発生状況



今、気をつけたい感染症～百日咳～

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作等を特徴とする感染症で、２～３か月の間、発作性の咳が継続します。川崎市における報告数は、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった令和２年以降、大幅に減少していましたが、令和５年は第２６週（６月２６日～７月２日）までに計６件の報告があり、すでに昨年１年間の報告数を上回っています。

百日咳は、年齢を問わず感染する疾患ですが、生後６か月未満の乳児がかかると、呼吸困難等の重篤な症状が現れることがあり、死亡する可能性もあります。ワクチンで予防できる疾患であるため、定期予防接種を期間内に忘れずに接種しましょう。

百日咳とは

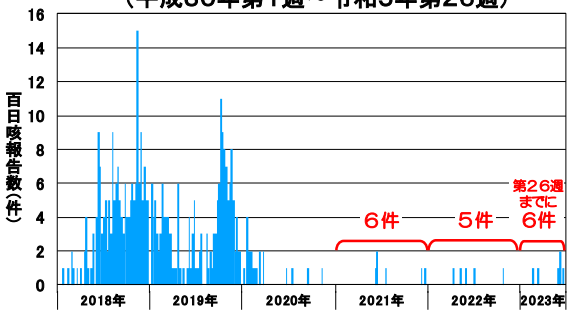
【感染経路】
咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

【経過】
①カタル期：５～１０日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
②痙咳期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る咳発作がみられる。
③回復期：激しい咳が消失した後も、発作性の咳が継続する。

【合併症】
肺炎、脳炎等

【予防方法】
百日咳含有ワクチンの接種（ＤＰＴ－ＩＰＶなど）

川崎市における百日咳の発生状況
（平成30年第1週～令和5年第26週）



百日咳含有ワクチンの定期接種スケジュール

- 初回接種　生後２か月～１２か月の期間に２０日以上（標準的には２０日～５６日）の間隔をおいて計３回
- 追加接種　３回目の接種から６か月以上の間隔をおいて１回

川崎市 KAWASAKI CITY

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・
各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）０４４－２７６－８２５０

令和５年７月４日作成